

学 位 論 文 要 旨

博士課程 甲・乙	第 号	氏 名	與那覇 哲
<p>[論文題名]</p> <p>The diagnostic and prognostic value of mature and total adrenomedullin for sepsis: a prospective, observational study</p> <p>敗血症における mature および total adrenomedullin の診断的および予後的な有用性：前向き観察研究</p> <p>Anaesthesiology Intensive Therapy, accepted, 28 ページ</p> <p>[要 旨]</p> <p>背景：敗血症や敗血症性ショックの新しいバイオマーカーとして期待されている生物学的に活性なアドレノメデュリン (mature AM) に関する情報は限られている。ここでは、敗血症の診断および転帰予測における mature AM の価値を検討した。</p> <p>方法：集中治療室 (ICU) に入院した患者を、Sepsis-3 の定義に基づき、非敗血症群と敗血症群にレトロスペクティブに分類した。血漿中の成熟型および総体 (中間型と成熟型の合計) の AM 濃度を測定し、その有用性を他の敗血症バイオマーカーと比較した。</p> <p>結果：分析した 98 名の患者のうち、42 名を非敗血症群に、56 名を敗血症群に割り付けた。入院時の mature および total AM レベルは、敗血症患者群では非敗血症患者群に比べて有意に高かった。敗血症の診断における mature および total AM の受信者動作特性曲線下の面積 (AUC) は、それぞれ 0.85 および 0.88 であった。敗血症患者の 28 日死亡率を予測する mature および total AM の AUC は、入院後 3 日目に有意になった。両 AM の間には良好な相関関係が認められ、両 AM の血漿中濃度の変化が相互に反映されている可能性が示唆された。</p> <p>結論：敗血症患者では、入院時に mature および total AM レベルが有意に上昇したことから、Sepsis-3 の定義に従って敗血症を診断するための信頼性の高い早期バイオマーカーとして、mature, total AM の両方とも使用できる可能性がある。しかし、敗血症患者の 28 日後の死亡率を予測するには、数日間の ICU 滞在が必要である。</p>			

備考 論文要旨は、和文にあつては 2,000 字程度、英文にあつては 1,200 語程度